

ずいそう

これからが挑戦

和田 銃



兵庫県宝塚市と西宮市の境界地域にある武庫川溪谷には、JR 生瀬駅から JR 武田尾駅までのウォーキングコースがあり、昭和 61 年 8 月に架け替えのため廃線となった旧 JR 福知山線の軌道跡を歩くユニークなコースがあります。秋の紅葉を求め、建設機械の開発に生涯を掛けた設計 OB の仲間達が集い、今なお枕木と敷石が残る道を武庫川溪谷の自然の景観を楽しみながら歩きました。途中には懐中電灯が無ければ歩けない真っ暗なトンネル、朽ち掛けた鉄橋があり、タイムスリップしたような雰囲気を感じることができました。この旧福知山線は兵庫県尼崎駅を起点にして終点福知山まで延長 108.3 km を有し、旅客扱い区間としては東海道支線 No.2 の距離を誇る関西の主要幹線でした。この鉄道敷設工事のために日本各地から労働者が集まり、急峻な山間をねりながら流れている武庫川の際を崖にへばりつきながら走る路線であったため、施設工事は難攻しトンネル工事では多くの犠牲者が出たそうです。岩肌の所々には削岩機で掘った発破を詰め込むための穴など、掘りかけたまま放置された洞窟があり、現在の機械化土木とは程遠い昭和初期の難関工事の一端をかいま見ることができました。また同時に機械化土木の導入時期であった 40 年前の入社当時が思い出されました。

建設会社に入社した当時、本社前にあった工場の置場には、佐久間ダムでの稼働を終え、泥濘の中で疲れ切った米軍払下げのパワーショベル、ブルドーザ、ダンプ等が分解されて置いてありましたが、それが建設機械との出会いでした。

再整備して組立てるにも交換部品の入手が非常に困難であったため、国産化の汎用部品を除く全ての部品を自社で製作する必要がありました。毎日巻尺とノギス、マイクロメータを片手に磨耗した部品やら、破損した部品をスケッチし、腕カバーをしながらグラフ用紙を下敷にして図面を作り、現物合せに四苦八苦しりましたが、再整備した大型重機が次の建設工事現場に向けて工場を出て行く力強い雄姿に、設計屋としてのやりがいを感じ、建設機械の開発業務に携わる切っ掛け

ともなりました。

この廃線軌道跡は第一線の役割を終え、いまユニークなウォーキングコースとして、次世代に何かを伝えようとしています。それは開発設計の仕事から離れた私への指標を示しているように感じました。第 2 の人生としてスタートした安衛法の特定期間の性能検査業務は、今までとは 180 度立場が変わりましたが、これからは役立ちたいと思っております。

敗戦直後の日本に進駐したマッカーサー元帥の座右の銘であったと云われるアメリカの詩人サミュエル・ウルマンスタートの『青春の賦』にある「若さとは人生のある期間のことではなく、心のあり方のことだ。人は歳月を重ねたから老いるのではない。若くあるためには、強い意志力と、優れた構想力と、激しい情熱が必要であり、小心さを圧倒する勇気と、易きにつこうとする心を叱咤する冒険への希求が無ければならない。人は歳月を重ねたから老いるのではない。理想(夢)を失うときに老いるのである。…」

この詩は戦後の日本経済の成長期だけでなく、高齢化がすすむわが国の現状に当てはまるものであり、再認識すべき時期と云えます。

老いないために何をするか、それは「やりたい」、「やりたくない」と「できる」、「できない」を座標軸にして組合せたとき、「やりたい」、「できる」は当然として、「やりたい」、「できない」の組合せである「やりたくてもできない」ことを勇気をもってやることこそ、老いないための秘訣と云えます。現役社会人として活力があるときは別として「やりたくない」、「できない」の組合せは、生活がかかっている限り、精神的に逆効果となり避けるべきでしょう。人はやりたいことをするのが本来の姿であり、それが満足されているときが若さと云えます。身近なところでは、趣味を広げ、深めることこそ「やりたくてもできない」ことに挑戦する典型的な例と云えます。「年寄りの冷や水」は昔の諺であり、今では死語になっています。

——わだ すすむ シマブンエンジニアリング(株) クレーン検査事業部 部長——